

# あおもり

## CONTENTS 目次

特集 ▶ P2-5

### あおもりで暮らそう!あおもりに帰ろう

旬を食べよう。あおもり野菜で簡単ヘルシークッキング/  
青森さらりイッピン 私が出会った青森のイッピン ▶P6

想定を上回る災害が発生しています/  
青森県職員の給与と職員数のあらし/  
12月は地球温暖化防止月間です ▶P7

申吾のほっとコラム/あおもりインフォメーション ▶P8



## 物語を紡ぐ 裂織ルネッサンス!

布が貴重だった江戸時代、着古した着物などを裂いて再生する機織りはたおの「技法として生まれた「南部裂織」」。物の命をいとおしみ、大切にする先人の知恵が込められており、青森県の伝統工芸品に指定されています。

裂織に魅せられた故・菅野暎子さんは、失われつつあった南部裂織の普及と伝承のため、昭和50年、十和田市で「南部裂織保存会」を設立。その後、菅野さんの意思を受け継いだ青森県伝統工芸士・澤頭ユミ子さんが中心となり、どこにもない誇るべき文化だからこそ、芸術・教育・産業に高めようと200名にも及ぶ会員らが一丸となって活動を続けています。「道の駅とわだ」に隣接する「匠工房」には、菅野さんらが収集した地機じばた約70台がズラリと並び、製作体験も楽しめます。

かつては、こたつ掛けとしての用途が主でしたが、最近では、鮮やかな市松模様が「南部のタータンチェック」として称賛され、ブランケットやラグマットとしても人気。また、美大生やアーティストと同会のコラボにより、新しいプロダクトを生み出す「Sakiori 3G Project」など、世代や業種を超えた活動も展開中!約200年前に「もったいない精神」から生まれた布は、古くて新しいお洒落アイテムとして、若い世代からも注目が集まっています。

▼関連記事はP66で